

会津若松ザベリオ学園中学高等学校

自作大型養殖水槽による産業の創造 ～温泉街の魅力創造プロジェクト～



学校にほど近い鶴ヶ城

地元の温泉を利用して養鰻に挑戦!

自分たちの力で会津を元気にしたい

白虎隊で有名な鶴ヶ城の城下町にある会津若松ザベリオ学園中学高等学校では、有志生徒を中心に2021年度から地元温泉の熱を利用した養鰻に挑戦している。

担当の遠藤直哉教頭の呼びかけで集まった生徒たちは「高校生で大学など研究室レベルのことができると言われて興味をもちました」(2年清田杏奈さん)などと動機を語るが、遠藤教頭は「根底には、新型コロナ禍による閉塞感のなか、自分たちの力で会津を元気にしたいという思いがあったのではないかと」言う。

東日本大震災直後、何が正解かわからないことだらけの状況を経験した遠藤教頭は、「生徒が自分たちで考え行動する力を養うことの重要性を痛感した」と言い、以後は「教えずぎないこと」を教育方針としてきた。



養鰻に取り組むメンバーと遠藤直哉教頭(左端)、今井直人教諭(右端)



プール脇に設置した大型水槽でウナギの養殖実験



養鰻プロジェクトの説明会に集まった生徒たち

失敗から始まる研究

養鰻も水の管理などの基本を教えただけで、初年度は疫病でウナギが大量死した。しかし、遠藤教頭は「全部教えると生徒は自分で動かなくなりますし、失敗しないと育ちません」と断言。その言葉どおり、今年度の生徒たちは高圧酸素療法をウナギの治療に試し始めたほか、水槽のアンモニア除去を兼ねた「アクアポニクス(養殖+水耕栽培)」でトマト栽培も始めている。

こうした研究は「遠藤先生の助言をきっかけに始めました」(3年国分希さん)と言うが、遠藤教頭は「最終的には生徒が自分から『やってみたい』と言うように、裏でたくさん準備をして仕向けています」と笑う。その甲斐もあって、3年生の川田恵里花さんが「何か起きた時、最初は先生に『どうしよう』と聞いていましたが、今ではみんなですぐにかする方法を考えるようになりました」と言うように、生徒たちは養鰻での地域活性という目標に向けて邁進している。(プログラム助成)



アクアポニクス予備実験開始



医療用プロトコルで魚の高圧酸素療法にチャレンジ



●実施担当

遠藤直哉 教頭

●活動のモットー

生徒自ら考え行動するよう、「教えずぎないこと」に気をつけている。教員自身が楽しんで取り組んでいる姿を見せることも大切。

学校概要



「清く・明るく・強く」を校訓に、自分の才能を十分に生かす教育で世界への関心を広げ、現実感謝できる人材の育成をめざす。

設立: 1949年
生徒数: 高等学校 505人 中学校 154人
所在地: 福島県会津若松市西栄町1-18

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索